



## 「小冊子」(Vol.71)本日入稿

(以前の発表内容と異なります)

「世界通貨戦争特集」と銘打って下記の項目に分けて解説する。

### はじめに：本物から偽経済へ

ブレトンウッズ体制(1944年)後のドル基軸と金本位制が1971年8月15日のニクソン・ショックで崩壊し、ペーパーマネー乱発時代に突入、ドルはペトロダラー(中東原油決済通貨をドルにする)でドル基軸を維持しながら今日のペーパーマネー・バブル時代に至っている様を描き、白川日銀総裁から代わった黒田総裁はGDP比でFRBの3倍の緩和をしたが物価ターゲットは夢の夢。

何のための、誰のための異次元金融緩和かわかっているのか。

### 第一章：FRBの利上げの真の狙い

発表されているアメリカ経済のファンダメンタルズは粉飾、バブル景気で景況感を煽っているだけで、実際のデータは不況時のまま。それを百も承知のFRBは何故利上げ(引き締め)をするのか。FRBの隠された緩和と利上げの本音やいかん。

### 第二章：アメリカのドル防衛は国防

私の友人はCIA、NSA(国家安全保障局)、ペンタゴン(国防総省)の金融関係の戦略顧問。アメリカの安全保障機関(大御所と呼ぶ)は核戦争より通貨戦争に重きを置いている。大御所とFRBとの提携プレーの様を描いた。

### 第三章：イラン核関連合意に潜む思惑

本合意で中東が平和になるといわれるがはたしてそうか。

アメリカ議会は本合意を批准しない可能性が高く、アメリカの対イラン制裁は続く。そうなるとうる原油決済通貨、イラン資源開発投資等の決済通貨はドル以外になる。何故米議会はドル防衛に反する決議をするのか、そしてその結果は。

### 第四章：IMF改革は何をもたらすのか

IMF(国際通貨基金)のSDR(特別引出権)準備通貨への人民元採用を巡って国際世論(G20)、IMF内部の混乱とIMF勧告に従って為替管理方式を中間値方式(より市場化、より透明性)への変更(8月11日)を人民元の切り下げと騒ぐ愚かさ。ドル安・円高、暴落目前!損時期が決まった!

### 第五章：10月までの相場の変化

何が上がって、何が下がるか。気が遠くなる儲け方もある!

### 終わりに：増田俊男の日中同盟の夢

若き日、田中角栄先生に仕えて知った先生の悲願と無念さ、CIAによる殺害。

アメリカが操る日中対立。

どうすればいいのか日本。

最も複雑な時代を一刀両断!

ご期待ください。